

衣服それぞれの役割と機能を考えて、必要とされる機能を満たせる服を選び、意識的にこういったレイヤーを作るように重ね着をすることで、最低限の枚数で最大限の効果を得ることができるのだ。

第一層・第二層である程度の保温ができていれば上着はかなり薄手のものでよく、ふ厚い上着をもこもこ着込んで汗かくという状況に陥らずに済むし、ファッション性の高い衣服だって楽に着ることができる。

コミケでは、やたらと厚着するより上手な薄着でフットワークをよくすることが体の負担を軽くし、勝利への近道となるのだ！

● 必要条件からのウェア選択 ●

前項のレイヤーの考え方をもう一歩進め、コミケという特殊環境下で快適に過ごすために必要な衣服に求められる機能やスタイルを考えてみよう。

コミケの着こなしその① 熱の逃げ場を考える

コミケのような環境では、寒いときと暑いときが交互に訪れる。

そういう場合には、体温をうまくコントロールしなくてはならないが、そのポイントとなるのが首、手首、掌、腰、膝、足首、爪先だ。

これらの部位には、体の表面近くに太い血管が通っているために体温が外気と交換されやすい、いわば体のラジエーターにあたる部分なのだ。

従って、寒いときにはこれらの部位を行衣服で覆って体温が逃がさないようにし、逆に暑い時は外気に触れさせて上がりすぎた体温を逃がしてやればいいのだ。

ただし、例外は腰。

腰は面積が大きいので、腰が外気と接触していると体が冷えやすく、また、腰が冷えていると動きまわった際に体温が上がってもその体温を外部に逃がさないように体が機能してしまうために、体温調整がうまくできなくなってしまうのだ。

腰は裾の長いアンダーで立っても座っても肌が出てしまわないように完全に覆っておこう。

同じようにきちんとガードしておきたいのが足首だ。

とにかく歩きまわらなくては始まらないコミケでは足首には大きな負担がかかるし、冷たい地面に長時間接している靴からは意外と体温が逃げやすい。

その部分を保護する意味でもソックスは長めで厚手のものを選び、膝の下辺りまでカバーするようにしたい。

素材面でも、他のアンダーウェア同様、ソックスでも綿100%は厳禁。ハイキングや登山などのウォーキングスポーツ用が望ましいが、専用のものでなくてもナイロン系やポリウレタン、ウール、アクリル系などの素材が多く含まれているものを選びよう。

その上で、首元をマフラー、手首は手袋でカバーしておけば、衣服1枚分以上に暖かく、それらを外したり着けたりすることで細かな放熱調整が行えるだけでなく、衣服に比べずっとコンパクトに携帯することが可能だ。しざかけ

手袋やマフラーなどを落とさないよう、ポーチや巾着、バッグのポケットなど、専用の収納スペースを用意しておくとうい。



・コミケの着こなしその② 下着は夏より重要です！

冬でも動いたり暖房の効いた乗物に乗ったりすれば意外と汗をかき。

外気温が低く重ね着状態の冬の方がかいた汗が残りやすく、それによって身体を過剰に冷やしやすいため、むしろ夏よりも冬の方が汗対策は重要なのだ。

その際に必要な機能は、『乾きが早いこと』と『かいた汗を素早くウェア全体に拡散させ、部分的に濡れた状態を作らないこと』で、そのためには吸湿速乾繊維やウールなど綿以外の下着や肌着を身に付けるのはもう常識だが、最近はそのような機能衣料は高性能化が進み、冷え性のひと用に繊維自体が発熱して温度を保ってくれるものや、繊維の中に水分を溜めこまないものなど様々な製品がアウトドア用品専門店でも購入できるようになった。